

問題 No.31 減価償却費の計算(3)

次の問について答えなさい。

問 取得原価2,000,000円、残存価額10%、耐用年数5年の機械設備を級数法で減価償却している。このとき、取得してから1年経過した時点における、当該機械設備の貸借対照表上の評価額（いわゆる未償却残高）はいくらになりますか。なお機械設備の評価に際しては、減価償却累計額勘定を用いない「直接控除法」が採用されているとする。

問題 No.32 新しい減価償却方法(1)

次の問について答えなさい。

問 2007年度の税制改正に伴う新しい減価償却方法に関する次の記述のうち、正しくないものはどれですか。

- A 償却可能限度額が引き上げられ、取得価額の99%までの償却が可能になった。
- B 新しい定率法の償却率は、新しい定額法による償却率の原則2.5倍である。
- C 耐用年数が同じであれば、初年度の償却額は、従来の方であっても新しい方法であっても、必ず定率法の償却額が定額法の償却額を上回る。
- D 期首簿価に償却率を乗じて求めた額が償却保証額を下回る場合、改定償却率を乗じて償却限度額を算出する。

問題 No.31 【解答及び解説】

(答) : 1,400,000円

《解説》

1年目の減価償却費

$$(2,000,000 - 200,000) \times \frac{5}{15} = 600,000$$

B S 価額 (簿価)

$$2,000,000 - 600,000 = \underline{1,400,000\text{円}}$$

問題 No.32 【解答及び解説】

(答) : A

《解説》

- A : 償却可能限度額は廃止され、1円まで償却できるようになった。本肢は誤り。
 - B : 本肢は正しい。
 - C : 本肢は正しい。
 - D : 本肢は正しい。
- よって、本問の正解肢は (A) である。

問題 No.33

新しい減価償却方法(2)

取得原価2,000千円、耐用年数5年、残存価額1円の固定資産がある。よって、各問に答えなさい。

問1 3年目末の 減価償却費、 減価償却累計額、 期末帳簿価額を定額法により計算しなさい。

問2 問1と同様に、定率法で計算しなさい。

問題 No.33

【解答及び解説】

(答) : 問1	400千円	1,200千円	800千円
問2	250千円	1,750千円	250千円

《解説》

問1 定額法による償却率の計算

$$1 / \text{耐用年数} = 1 / 5 = 0.2$$

各年の減価償却費の計算

$$2,000\text{千円} \times 0.2 (\text{定額法償却率}) = \underline{400\text{千円}} \quad \text{-----} \quad \text{答}$$

減価償却累計額

$$\begin{aligned} \text{減価償却費 (定額)} \times 3\text{年分} &= 400\text{千円} \times 3\text{年} \\ &= \underline{1,200\text{千円}} \quad \text{-----} \quad \text{答} \end{aligned}$$

期末帳簿価額

$$\begin{aligned} \text{取得原価} - \text{減価償却累計額} &= 2,000\text{千円} - 1,200\text{千円} \\ &= \underline{800\text{千円}} \quad \text{-----} \quad \text{答} \end{aligned}$$

問2 定率法の償却率

$$\text{定額法の償却率} \times 2.5 = (1 / 5) \times 2.5 = 0.5$$

各年の減価償却費の計算

$$1\text{年目} : (2,000\text{千円} - 0) \times 0.5 = 1,000\text{千円}$$

$$2\text{年目} : (2,000\text{千円} - 1,000) \times 0.5 = 500\text{千円}$$

$$3\text{年目} : (2,000\text{千円} - 1,500) \times 0.5 = 250\text{千円} \quad \text{の答}$$

$$\underline{1,750\text{千円}} \quad \text{の答}$$

期末帳簿価額

$$2,000\text{千円} - 1,750\text{千円} = \underline{250\text{千円}} \quad \text{の答}$$